

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2024年1月 104号

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com

http://keaf-japan.com



「支援物資」届ける「最後の現地訪問」を計画

「最後の支援」① ②を 22～23 年に実施

「KEAF 解散」は年内を目指しています

コロナ蔓延がようやく峠を越えた 2022年に「最後の支援」をした後、カンボジア教育支援基金(KEAF)は解散すると会報 103 号(2022年9月)でお知らせしました。しかし、「最後の支援」ではすまなくなつて「追加支援」に取り組んだのですが、様々な理由で手間取り、1年半が過ぎてしまいました。この間、会員および支援者の皆さんには適切な報告ができなかったことにまず、深くお詫びいたします。現在、残された「支援物品」を届ける「最後の訪問」を近々のうちに実施する準備を進めており、本年秋に KEAF 活動を締めくくりたいと考えています。その報告は『カンボジア通信』最終号(105号)でお届けすることになります。

「最後の支援」① 22年11月に実施

2年半ぶりの現地訪問

コロナ禍の2022年夏、ようやく2年半ぶりにカンボジア現地への訪問が実現、コロナ蔓延の長期化とわれわれメンバーの高齢化の進行によって残念ながら KEAF 活動を続けることができなくなつたと支援先の学校・施設に伝えるとともに、「最後の支援」に何を望むかを聞いて帰りました(『カンボジア通信』103号)。

「最後の支援」の要望は次のように、これまで通りに学用品、教材、スポーツ用具が中心でした。

▽学用品;鉛筆・ボールペン、消しゴム、チョーク、マーカー、パソコンインク・用紙など。

▽スポーツ用具;サッカーボール、バレーボール・ネット、ユニフォームなど。

▽教材;辞書、地図、地球儀、理科実験用具、低学年から高校までの歴史書や教養書など。

しかし、最後の支援とあっていくつもの学校からはパソコン、プロジェクター、デジタルカメラなどちょっと値段の張るものが含まれ、変わり種では電動草刈機・はさみがありました(上の写真:日本の援助で建設されたトンレサップ川にかかる2本目の日本橋。プノンペン)。

学用品・教材支援を先行

KEAF 財政はコロナ禍によるさらなる円安が進行していたので、パソコン、デジカメなどの支援は後に回して、学用品、教材、スポーツ用具などプノンペンですぐにも調達可能なものから始めることにしました。プノンペンの協力者ソワンさん(日本語ガイド)と助手ナットさん(ソワン夫人の弟さん)にマーケット価格の調査を依頼、可能

なものから購入を始めようことにして、事務局から岡宮喜雄さんが現地に飛びました。

岡宮さんとソワン、ナット両氏の3人は岡宮さん到着当日の11月14

日午後から19日までの6日間で4高校、4中学、4小学校、1養護施設に「最後の支援」①を届けました。合わせてパソコン、プロジェクター、デジタルカメラ、草刈り機などの要望について、新品か中古でいいかなど詳しい事情を聴き、プノンペンに戻った翌20日にはパソコン、プリンター、デジタルカメラ、草刈り機などの市場調査をしました(以上、岡宮さんの事務局会議への報告から)。

「最後の支援」①に必要な支援品の購入金額は概算で150万円でした。財政的にはパソコン、デジカメ、草刈り機などの先送り分に加えて多少の追加支援も可能と判断、岡宮さんは「最後の支援」追加の要望を聞いて帰国しました。



「最後の支援」②と「追加支援」

ソワン・ファミリーに配達委託

航空運賃で現地訪問取り止め

2023 年に入り、パソコンや草刈り機などの残り分「最後の支援」②に、可能な限りの学用品・教材を加えた「追加支援」のため、2月上旬に事務局の2人が現地訪問する準備に入りました。ソワンさんと日程調整を済ませ航空便の予約に入ったところ、航空運賃がさらに急騰していることが分かり、慌てました。

カンボジア往復航空運賃は KEAF 活動を始めたころ 7～8 万円、その後円安が進行し始めコロナ前には 10 万円ラインにきていました。コロナが始まって2年半の22年7月訪問時には 16 万円、同 11 月には 20 万円でした。それがさらに26万円に高騰していました。

2人分で 52 万円。これに現地行動に必要なチャーター車借り上げ、ガソリン、通訳料、ホテル代などを加えると、「追加支援」の学用品などをそろえるための経費をオーバーバーしてしまうというチグハグになってしまいます。

「支援物資」届ける

「最後の訪問」へ

「最後の支援」②と要望を受けた「追加支援」はこれで終えたのですが、KEAF の手元には国内の支援者から提供を受けた衣類、かばん、学用品、スポーツ用具など支援物品がまだ相当量残っています。現地訪問のさいに少しずつ持っていくのですが、沢山運ぼうとすると航空機の携行荷物重量制限を超えて高額の上乗せ料を請求されることになります。

そこで1回だけ船便で送ってみました。これには受取先が必票になるのでソワンさんをお願いしたところ、数カ月かかってやっと届いたものの通関手続きが厄介でソワンさんにひどい迷惑をかけてしまいました(賄賂を出さなかったからだという話もありました)。

手元に残った支援物品をどんな方法で持っていか検討中で、近く結論を出したいと思っています。

今の私たちにも重い課題があります。コロナの3年の間に 70 歳代後半から 80 歳代後半という「元気な年寄り」だったわが事務局の高齢化が一気に進んで、何事にも行

そこで現地訪問を取り止めて、「最後の支援」②と「追加支援」の支援品調達、支援先への配達をソワン・ファミリーに業務委託できないか聞いてみました。「最後の支援」①のさいに岡宮さんと一緒に市場調査、品物調達、配達を担ってくれた経験から快く引き受けてくれました。

ソワンさんとナットさんから5月末、「最後の支援」②と「追加支援」は計画通りに届けたとの連絡を受け取りました。

下の写真:22年 11 月「最後の支援」①を届けた岡宮さん(中央)、ソワンさん(向かって右)、アンサー小学校長(左)。



動がスローになったことです。

養護生活に入った人、持病の悪化が進んだ人、年齢が故の思わぬ事故に遭い長期の入院治療を余儀なくされた人など。

「最後の支援」①の準備と 22 年11月の 10 日間の訪問で、ソワン・ファミリーとともに支援実施に当たった岡宮喜雄さんは帰国後に体調を崩して入院、いったん回復されたように見えたのですが昨年 10 月、米寿を迎えたあとすぐに亡くられました。

私たちにとって KEAF 活動の締めくくりを岡宮さんと一緒に迎えられないことはあまりにも残念です(岡宮君とは中学からの仲間でした一金子)。

—完—